

1989年1月11日

教会・伝道所
牧師先生
役員御一同様

日本バプテスト連盟
常務理事 松倉



前天皇死去に際しての理事長書簡

主の御名を讃美いたします。

御恩寵の下新しい年を迎え、貴教会には教勢いよいよ御進展のこととお慶び申し上げます。

さて、標題に関する理事長の書簡を送付いたします。ご参考下されば幸甚です。

尚、靖国問題委員会の同声明はバプテスト誌2月号に号外として掲載の予定です。

「天皇の死去にあたって」

天皇が亡くなられた時にあたり、ひとりの人の死を悼むとともに、この時が、アジアの多くの隣人に悲惨な犠牲を強いてきた「昭和」を総括すべき大切な時となり、私たちの国が主のみこころにかなう新たな歩みへと向かう転機となるように願ってやみません。

しかしながら、神道にかかわる伝統の踏襲と結びついた天皇の葬儀と皇位継承の儀式が国事として行われることは、政教分離、信教の自由を脅かすものであり、さらに新元号の制定、並びに弔旗掲揚、歌舞音曲をさしひかえることなどの政府の決定、通達等は、天皇を再び現人神化する恐れがあると言わざるを得ません。

私たちは、「あなたはわたしのほかに、なにものもをも神としてはならない」(出エジプト記20:3)とのみ言葉に固く立ち、政教分離、新教の自由、良心の自由がつかぬかれ、すべての人が、ただ神のみを神としてあがめ、まことの神にのみ栄光を帰することができるようになるために、いよいよ福音宣教の使命に応えていきたいと願ってやみません。

1989年1月7日

日本バプテスト連盟

理事長 岡村正二